

天理市生成 AI 利用ガイドライン

令和 7 年 5 月 1 日 制定

令和 8 年 7 月 1 日 改定

1. 目的

本ガイドラインは、天理市情報セキュリティポリシーに基づき、職員が業務で生成 AI を利用する際に遵守すべき事項を示すものです。生成 AI は業務効率の向上や創造的なアイデアの提供に役立ちますが、不適切な使用により法令違反や権利侵害が生じるリスクもあります。本ガイドラインを熟読し、安全かつ効果的に生成 AI を活用してください。

2. 適用範囲

(1) 適用対象

本ガイドラインは、天理市の職員を対象とします。

(2) 対象生成 AI

本ガイドラインの対象とする生成 AI は、Polimil 株式会社提供の QommonsAI（コモンズ AI）とします。

なお、音声議事録生成 AI など特定業務向けの生成 AI については、別途利用マニュアルで対応します。

(3) 市が管理していない生成 AI の利用禁止

市で管理していない生成 AI サービス（私用デバイスや私的アカウントによるものを含む）の業務利用は、天理市情報セキュリティポリシーに基づき禁止します。

外部サービスが市の安全基準を満たしていない場合、情報漏えいや改ざんの危険があるほか、サービスが突然停止するなどの問題が生じる可能性があります。また、国外にサーバがあるサービスを利用すると、現地の法律によってデータが閲覧されたり、取扱いが制限されたりするリスクも懸念されます。このようなサービスの利用は、市が管理する情報資産の安全性を確保できなくなるため、業務では必ず市が許可した生成 AI サービスを利用してください。

3. 生成 AI 利用の注意事項

生成 AI ツールは、単語とその並びを確率によって表したもので、多くのテキストデータの学習により、人間が自然と感じる回答を確率に基づいて生成する仕組みです。一方で、入力した情報が学習され第三者の回答に利用される可能性や、入力する情報の内容や生成結果の利用方法によっては、法令違反や権利侵害につながる可能性があるといったリスクも存在します。また、生成 AI が生成した情報は、最新の情報が反映されていない、偏った価値観に基づいていたり、事実と異なる情報（ハルシネーション）、事実や妥当性よりも、相手に気に入られることを優先して同意してしまう傾向（シコファンシー）が含まれていたりするなど、必ずしも全てが「正確」であるとは限りません。

以下の注意事項を遵守し、生成 AI の特性を理解したうえで、業務の効率化や行政サービスの向上につなげましょう。

① 生成物には第三者が権利を持つデータが含まれる可能性

生成 AI は、多数のデータを学習しており、その中に第三者が権利を持つデータが含まれる可能性があります。資料や報告書で生成 AI の生成物をそのまま引用することは避け、生成物を参考に独自の文章や内容に編集・修正してから利用してください。

② 元となる情報が古く、最新の情報を持っていない可能性

生成 AI が学習した情報は過去のものであり、必ずしも最新の情報を持っているとは限りません。特に法令や制度に関する情報を扱う際には注意が必要です。生成 AI による回答をもとに、必ず最新の公式文書等を参照するようにしてください。

③ 生成物(回答)に偏見や先入観などが含まれる可能性

生成 AI が学習した情報は、必ずしも公平・公正なものとは限らず、何らかの偏見や先入観に基づく結果が得られる可能性があります。生成 AI による回答は、あくまで参考にとどめ、職員自ら多角的な視点で検証し、精査を行ってください。

④ 職員自ら作成することに意味がある場面での利用

特に配慮が必要な文書（例：謝罪文、追悼文）の作成には、生成 AI の利用は適していません。そのまま利用せず、職員が気持ちを込めて作成するか、関係部署の職員の意見を取り入れるようにしてください。

⑤ サービス提供者が設定する独自ポリシーの確認

生成 AI サービスの提供者は、利用に関する独自の規約やポリシーを設けている場合があります。サービス提供者の利用規約やポリシーを十分に理解した上で、適切に利用してください。

4. 生成 AI 利用の禁止事項

【入力内容に対する禁止事項】

① 個人情報の入力

個人情報保護法に抵触するおそれがあるため、個人情報（氏名、住所、マイナンバー等）の入力は一切禁止します。断片的な情報でも、他の情報と容易に照合して個人を識別できる場合は個人情報として扱ってください。

② 機密情報の入力

市の機密保持に関する規程等に違反するおそれがあるため、非公開の会議内容、内部の意思決定過程などの機密情報の入力は禁止します。

③ 入力情報の範囲

天理市情報セキュリティポリシーで定める自治体機密性 2 以上に該当する情報（要機密情報）は、生成 AI への入力を禁止します。入力は、第三者に公開されても問題ない情報（自治体機密性 1）を原則とします。

【参考：天理市情報セキュリティポリシーにおける機密性区分】

区分	分類基準	具体例（イメージ）
自治体 機密性 3A	行政事務で取り扱う情報資産のうち、「行政文書の管理に関するガイドライン」（平成 23 年 4 月 1 日内閣総理大臣決定）に定める 秘密文書に相当する文書	極秘文書、機密扱いの政策決定資料 等
自治体 機密性 3B	行政事務で取り扱う情報資産のうち、漏えい等が生じた際に、個人の権利利益の侵害の度合いが大きく、事務又は業務の規模や性質上、取扱いに非常に留意すべき情報資産	マイナンバーを含む情報、生活保護・税・福祉・医療等の個人情報、特定個人情報 等

区分	分類基準	具体例（イメージ）
自治体 機密性 3C	自治体機密性 3B 以上に相当する機密性は要しないが、基本的に公表することを前提としていないもので、業務の規模や性質上、取扱いに留意すべき情報資産	一般的な個人情報（氏名・住所等）、人事・内部管理情報、契約交渉中の情報 等
自治体 機密性 2	自治体機密性 3 に相当する機密性は要しないが、直ちに一般に公表することを前提としていない情報資産	非公開の市民相談記録、内部協議資料、未公表の事業計画等
自治体 機密性 1	自治体機密性 2 又は 3 の情報資産以外の情報資産	既に公表済みの資料、ホームページ掲載情報 等

【生成物（結果）の扱いに対する禁止事項】

④ 生成物の安易な利用

人の目によるチェックをせず、生成物（回答）を直接公式文書や発表に用いることは禁止します。ただし、生成 AI からの回答をそのまま利用すべき特別な理由がある場合は、生成 AI が生成したことを明記してください。

⑤ 説明責任を果たせない利用

生成 AI の出力に基づく判断も職員の説明責任の対象です。自身で内容を理解・説明できない生成物を業務利用してはいけません。

⑥ 著作権侵害のおそれがある利用

既存の著作物と類似した生成物が生成された場合は、利用前に必ず確認・修正をしてください。

5. 利用前のルール

(1)利用開始前に、情報政策課が指定する生成 AI 研修を受講すること。

※対面研修でない場合は、情報政策課が指定する動画研修を視聴し、理解度テストに合格することで代替できるものとする。

(2)利用規約・プライバシーポリシーを確認し、サービスの内容を理解した上で利用すること。

6. 利用中のルール

(1) 入力時

- ・利用目的の範囲内で利用し、必要最小限の情報のみ入力すること。
- ・入力前に、入力する情報が正確であることを確認すること。

(2) 生成物利用時

- ・ファクトチェック：正確性・根拠・事実関係を、業務上の重要度に応じて必ず確認すること。
- ・表現の修正：差別的表現や、倫理に反する表現、第三者の権利を侵害するおそれのある表現は必ず修正すること。
- ・説明責任：生成物に基づく判断も職員の説明責任の対象となります。自身で説明できる表現に修正すること。
- ・出典の明記：生成 AI の回答をそのまま利用する特別な理由がある場合は、生成 AI が生成したことを明記すること。

7. インシデント・リスクケース発生時の対応

生成 AI の利用に起因する以下の様なインシデントやリスクが疑われる事象検知した場合は、速やかに対応手順に従って行動すること。

(1) リスクケースの例

- ・偏見・差別を含む出力が公表物等に紛れ込んだ。
- ・ハルシネーション（事実と異なる情報）により職員・住民に不利益を与えた。
- ・著作権侵害のおそれがあるコンテンツを意図せず生成・利用した。
- ・入力データの漏えいが疑われる事象が発生した。

(2) 対応手順

ア. 検知内容の報告

検知者は、直ちに所属長および情報政策課に報告すること。

イ. 対処

情報政策課の指示のもと、業務影響特定・原因究明・暫定対応・恒久対応を実施すること。

ウ. 対応結果の報告

対応結果を所定の報告フォームで記録・報告すること。

（報告フォームは別途定める。）

エ. 個人情報漏えいを伴う場合

天理市情報セキュリティポリシーに基づき、個人情報保護委員会等へ報告すること。

8. ガイドラインの運用の留意事項

- ・最新のガイドラインの確認と適切な利用を常に心がけること。
- ・天理市情報セキュリティポリシーを遵守すること。
- ・本ガイドラインは国の動向・技術進展に応じて見直しを行う。

9. 生成 AI の利用方法

1. Web または LGWAN 環境から QommonsAI（コモンズ AI）の URL を入力し、専用サイトにアクセスします。
2. ID とパスワードを入力し、コモンズ AI にログインします。
3. 適切なテキストを入力し、生成を開始します。
4. 生成結果を確認し、利用する際は本ガイドラインを遵守してください。

<参考>

○ 生成 AI 活用にあたってのポイント（プロンプト入力のコツ）

プロンプトをうまく構成することで、生成 AI に質問の意図が正確に伝わり、適切な回答や情報を得ることができます。生成 AI を利用する際は以下を参考に、プロンプトの構成を意識することで、より精度の高い回答が得られるようになります。

※プロンプト…生成 AI へ入力する質問や指示

1. 役割	役割を与えることで回答ジャンルを絞ります 例:「あなたは地方公務員です」
2. 質問内容	質問内容を具体的にします。 例:「地方自治体に取り組むべきデジタル化について職員及び市民の観点から教えてください」
3. 条件	希望する条件や制約条件を入力します。 例:「デジタルデバイドに関する要素を含めて」「5つ以上挙げ

	て」「500文字以内」など
4. 掘り下げる	結果に応じて再度回答が必要であれば追加で入力します。 例:「特に優先的に取り組む内容とその理由を教えてください」など

【プロンプト入力例】

アイデア創出

役割	あなたは地方公務員です。
質問内容	地方自治体に取り組むべきデジタル化について職員及び市民の観点から教えてください。
条件	デジタルデバインドに関する要素を含めてください。
～AI からの回答～	
掘り下げる	特に優先的に取り組む内容とその理由を教えてください。

文章要約

質問内容	以下の文章を要約してください。
条件	300文字程度にまとめてください。 === (要約する文章を入力)
～AI からの回答～	

※ 要約したい文章をコピペする時は===などで区切って入力する

文章校正

質問内容	以下の文章を校正してください。
条件	校正箇所は明示してください。 === ～文章を入力～
～AI からの回答～	

掘り下げる

市民に分かりやすい表現にしてください。
〇〇の内容も追記してください。など

※ 条件に「校正箇所の明示」を指示することで校正箇所が分かり易くなります。

情報分析

質問内容

以下の文章の要点（または意図）を教えてください。
=
(対象の文章を入力)

～AI からの回答～

※ 伝えたいことが分かりにくい文章の意図が抽出できます。